

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) [http:// www.sakuramachi-hp.or.jp/](http://www.sakuramachi-hp.or.jp/)**基本理念**

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域医療機関と強い連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 全職員のよいチームワークによる患者さん中心の医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの訴えに誠心誠意耳を傾けます。

当院での糖尿病治療

内科医長 平嶺 和宏

近年糖尿病患者数の増加は目を見張るものがあります。原因として食生活の変化や自動車社会など様々な要因が挙げられています。平成19年厚生労働省より発表された国民健康・栄養調査によると糖尿病が強く疑われる人は890万人、糖尿病の可能性を否定できない人は1320万人、あわせて2210万人と推定されています。この人数は年々増加傾向があり、当院での糖尿病患者数も増加傾向が見られております。

当院には現在非常勤の医師も含めて4人の糖尿病専門医と5名の糖尿病療養指導士がおり約1000名の糖尿病患者様が通院あるいは入院加療を受けております。また外来も月曜から土曜までのすべての曜日において午前もしくは午後には必ず糖尿病専門医による外来が行われているのも特徴です。ただ同じ糖尿病といっても病態は千差万別、患者様一人ひとり病態は異なります。そのため治療も患者様によって変わってきます。また糖尿病という病気は糖尿病のみならず糖尿病により引き起こされる様々な全身疾患を引き起こします。そのため内科以外に眼科をはじめ様々な科に受診し合併症の早期発見や合併症の治療を行っております。

では当院での糖尿病患者様の治療についてですが、主に糖尿病は昔ながらの口渴、多飲、多尿といわれる症状を主訴に受診される方は少なく、多くは健康診断や人間ドッグなどにより高血糖を指摘され受診される方が多いです。このとき同時に測定されることが多いHbA1cとは過去1～2ヶ月の血糖の平均の状態を知ることができ、血糖値のように変動が激しくないため糖尿病のコントロールの指標に使われます。この時点で明らかに糖尿病と診断される方もいますが、そのほかの方は糖尿病の疑いありとのことで負荷試験である75g経口ブドウ糖負荷試験（75g OGTT）を行います。結果により正常型、境界型、糖尿病型と判定されますがここで正常型、境界型と診断されたとしても安心せず糖尿病の発症の予防に努めることが必要です。

一方糖尿病と診断された場合食事療法、運動療法を行っていきます。これらの治療は非常に大事で、糖尿病治療において今後も中心となっていきます。

当院では3名の管理栄養士がおり、患者様それぞれの適正消費カロリーを計算し患者様にあった栄養指導を行っております。食事療法は食べ過ぎず、偏った食事を避け規則正しく食事をするという事が大事です。食べてはいけないという食事は無く、バランスよく適正量を摂取するということが重要です。また、最近話題の低炭水化

物食事療法ですが、先の糖尿病学会にて提言があったとおり著明な肥満者が多くない日本人糖尿病患者には向かないということと、血糖値・インスリン値の改善は見られるも動脈硬化を進める可能性も示唆されており、当院ではすすめておりません。

一方運動療法も大事ですが、こちらは運動をすすめられない状態のときや低血糖を起こす危険もあり主治医との話し合いも必要と思われます。特に低血糖については空腹時の運動を避け食後の運動をおすすめしております。

食事療法、運動療法が十分に行われても血糖コントロールが目標に達しない場合薬物療法を開始します。

薬物療法には血糖降下薬という血糖を下げるための薬を飲む内服治療と、インスリンが不足もしくはほとんど出ない人のためのインスリン注射などがあります。内服薬にもインスリンの分泌を促進させる薬や、インスリン抵抗性を改善させる薬、食後の高血糖を主に改善させる薬などがあり、それぞれの患者様にあった治療薬を考慮して治療していきます。また当院では患者様が糖尿病を正しく理解していただけるために2週間の教育入院を実施しています。糖尿病合併症の精査や糖尿病についての学習、栄養指導などが行われます。また外来・入院患者様を対象に第2第4火曜日には糖尿病教室を開催し、当院糖尿病スタッフより糖尿病の知識の向上のお手伝いをさせていただいています。

最後に、当院の糖尿病友の会についてですが、当院では糖尿病患者様同士が気軽に相談でき親睦を深めることができるように、また患者様自身が糖尿病の治療や合併症の予防に関する知識の向上をはかることができるようにということで平成7年にさくらまち糖友会が結成されました。

年に2回の講習会を通しての知識の向上や患者さん同士で話し合いの場を作る語ろう会、体力低下を予防するための体力測定会、糖尿病患者様用のフランス料理フルコースのお食事会などを行っています。興味のある方は是非スタッフにお尋ねください。

糖尿病は決して一人だけで治療する病気ではありません。

患者様の家族をはじめ、医師や看護師など病院のスタッフなどが一丸となって治療していく病気です。ちょっとしたことや気になったことなど気軽にスタッフに相談できるような場を提供できればと思っておりますので、まずはお気軽にご相談ください。

母親教室のご案内

妊娠や出産について必要な知識や実際に役立つ情報を学び、お友達を作り、充実したマタニティライフを過ごしていただくために、当院では合計3回の母親教室を開催しております。第1回目は、妊娠16週以降の方、第2回目と第3回目は妊娠30週以降の方が対象です。産婦人科医師、小児科医師や助産師等がお話し、悩みや不安を解消するお手伝いをします。各回の内容については申込時や当院のホームページでご確認ください。各回ともご主人の参加が可能です。

お申込み 予約制となっておりますので、ご希望の方は、2階外来受付にお申し出ください。

開催日時 第1回目：毎月第2火曜日
第2階目：毎月第3火曜日
第3回目：毎月第4土曜日
各午後1時30分～午後4時
受付：午後1時15分～1時30分

場所 桜町病院別館3階
持ち物 母子健康手帳、筆記用具、母親学級資料（第1回目に配布したもの。）、アンケート用紙（第1回のみ、お持ちでない方は当日お渡しします。）

料金 無料です。

病棟見学 病棟見学は、第1回目・第2回目の15時30分から予定しております。ただし、インフルエンザ等の流行期には映像でのご案内になることがありますので、ご了承ください。

ご注意 第2回・第3回は、当院での分娩を予定している方に限ります。

祝日等により日時を変更することがありますので、予約時にご確認ください。

まなざしのご案内

まなざしは当院で出産後6ヶ月までのお母さんを対象とした子育て支援の会です。お母さんのお友達作りの場を提供しながら、赤ちゃんのことや子育てについて小児科医や助産師が気軽に相談に応じています。毎回30～40名程の参加があります。

お申込み 産科退院時に予約して下さい。

開催日時 第2、第4水曜日 午後1時～午後3時

場所 桜町病院別館3階

料金 無料です。

朝食をたべていますか？

1日のはじまりは朝ごはんからと言いますが、最近若い世代を中心に朝食をとらない人が増えてきています。

その理由は ・忙しく時間がない
・朝は食欲がない
・ダイエットのため など…



では、なぜ忙しい朝に朝食を食べた方がいいのでしょうか？

●ブドウ糖は脳の唯一のエネルギー源であり寝ている間も起きている時と同じ量を消費します。目がさめた時には不足した状態になっているので、朝食を食べないと脳に必要なブドウ糖が補給できず、頭が働かずボーッとして午前中は集中力がなくなったりイライラしてしまいます。

●空腹時間が長いと次に入ってくる食べ物を出来るだけ脂肪にかえて蓄えようとするしくみがあるので、太りやすい身体を作ってしまいます。

●食事の回数が少ないと、栄養素を補給する回数が減ってしまい様々な栄養素が不足し、体調不良なども起こります。

基本はバランスのとれた食事をするのですが、朝は忙しく食事の用意が出来ないという人は、夕食を多めに作ってその残りでも十分です。

食欲がなく今まで全く食べていない人は、まず牛乳や野菜ジュース、スープなどの飲み物からはじめてみませんか？そして次にフルーツやパン、シリアル、おにぎり等をプラスして少しずつ慣れていきましょう。

ダイエットをしている人もからだの調子を整え、1日はつらつと過ごすために朝食を食べる習慣をつけましょう。



栄養科長 松尾 敦子

ワクチン接種のおわびとお願い

残暑が厳しいこの時期に、今冬のインフルエンザワクチンの発注を終えました。

小児科インフルエンザワクチン予約は、9月17日（火）から、接種は10月16日（水）から始める予定です。今年も、スムーズに納品され、皆さんに接種できるよう準備しております。

昨年から今年にかけて、ワクチン接種ではご迷惑をかけて申し訳ありませんでした。

特に、小児科の4種混合ワクチン、MRワクチンは、入荷数が少なかったため、予約枠に制限を設けたため、思うように予約が取れず、他のワクチンを接種するための接種時期の調整に苦労された方も多かったのではないかと思います。また、大人の方で、風疹ワクチン・MRワクチンを必要とされる方、希望される方には、接種を受けていただきたかったのですが、7月後半からは、どうしてもワクチンの都合がつかず、突然の接種中止とさせていただきます。すみませんでした。

ワクチンは、その製品の性質上すぐに増産ができないため、何か事が起こってしまうと、すぐ供給不足になってしまいます。接種を必要とされる方、希望される方は、早め早めの接種をお願いします。

薬剤科部長 池淵 剛

職場紹介 南3階病棟

看護師長 太田るみ子

南3階病棟は病床46床の、外科と整形外科の患者さんが主に入院される外科系の混合病棟です。スタッフは外科医2名、整形外科医3名（内非常勤医師1名）、看護師22名（内非常勤8名）、看護助手7名（内非常勤3名）で業務を行っています。（平成25年8月31日現在）

外科では主に消化器系の手術を行ったり、消化器系の病気の精査や癌に対する化学療法、終末期の方の緩和ケアに至るまで多岐にわたっています。整形外科では様々な部位の骨折に対する手術をはじめ、脊椎疾患に対する手術、手術後や保存療法で弱った身体を出来るだけ元の生活に戻れるように、リハビリテーションにも力を入れています。

手術を受ける患者さんは年々高齢化の傾向にあり、慢性疾患を抱える方が多くなっています。そのため急性期では、手術後の離床の促進、異常の早期発見や合併症の予防に努めることが重要です。また、病気を抱えている方全般に言えることだとは思いますが、慣れない病院という環境の中で、手術という人生の大きな出来事を迎える患者さんやご家族の不安は計り知れません。私たちはその様な不安が少しでも軽減し、安全で安心して治療に望んでいただける様、医師や看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、看護助手等、多種職と協働して患者さんを支えるため定期的なカンファレンスを行い情報の共有と目標の明確化に努めています。



入院の時には苦痛や不安でこぼれていた表情が、治療や手術、リハビリの効果や信頼関係の構築から徐々に表情が和らぎ、笑顔で退院される姿に私達は大きな喜びを感じ、業務を行う上での励みになっています。時には患者さんやご家族から、私達スタッフへのねぎらいの言葉をかけていただき、自身のことより他人への配慮を忘れない姿勢に頭が下がる思いです。

今後も、患者さんやご家族の心に寄り添い満足して頂ける医療の提供を目標に、チーム一丸となって努力を続けていきたいと思っています。



患者さんのご意見から

ご意見・ご要望1

持ち込みの食事をする場所がないので、「軽食喫茶」で食事することを認めて欲しい。

<回答>

軽食喫茶の利用は、従来どおり軽食喫茶で注文したものと売店でお買い求めいただいたものに限らせていただきます。

持ち込みの物を食していただくために、中庭に面した廊下（軽食喫茶と職員食堂の間の廊下）に椅子とテーブルを用意させていただいておりますので、この場所をご利用下さい。

ご意見・ご要望2

この病院は、当たり前のように何の反省もなく番号で呼んではばからない。いかがなものかといつも思う。世相に流されやすい病院だ。

<回答>

病院には個人情報にあたる事項が沢山あります。その保護とプライバシーには最大限の配慮をしなければなりません。個人情報の保護に関する法律が全面施行（平成17年4月）されてから番号呼称をする病院が多くなっています。

呼び出しに番号を使うことには賛否両論があり、“私は名前前で呼んで欲しい”、“名前を呼ばれても一向に構わない”という意見があることは承知しています。しかし、当院では番号を使って呼ばれる嫌悪感にも増してプライバシーに配慮することを重視し対応させていただいております。“私は名前前で呼んで欲しい”という声に個別対応をすることは混乱の基になりますので、番号呼称に統一させていただいております。

トピックス

院内研修会から

4月以降、職員の知識・技能の向上を図るために各種研修・訓練が行われています。幾つか抜粋してみました。

- *救命措置訓練 6月17日、7月22日実施
- *個人情報保護研修「個人情報保護について」外部講師 6月19日実施
- *職員教育研修「最近話題の感染症について」7月17日実施
- *医療安全研修「医療におけるコミュニケーションエラー」外部講師 7月19日実施
- *接遇研修「人間関係を良好にするコミュニケーション」外部講師 8月19日実施

個人情報保護研修では、病院における多種類の個人情報について再確認するとともに、個別の事例に関する対応について学びました。感染症研修では、鳥インフルエンザ（H7N9）や新型コロナウイルス（MERS）等話題の感染症の概要や対策について学びました。医療安全や接遇研修では、安全で心通う医療の提供におけるコミュニケーションの重要性やその方法についての認識を深めることができました。

聖ヨハネ病院にて

日本経済新聞の土曜日の夕刊に文学周遊というコーナーがある。日本文学にゆかりのある土地や場所の現在を紹介している。7月13日の文学周遊では、終戦直後の桜町病院で妻の介護をした経験から書かれた上林暁の「聖ヨハネ病院にて」が取り上げられ、当院の聖堂の写真等が掲載された。

日経新聞のホームページ、「写真一覧」の文学周遊に9枚の写真が掲載されている。一度クリックしてみてください。



ホスピス外来のご案内

ホスピス外来は、完全予約制で、月、水、金の午後に行っています。

積極的ながん治療を終え、ホスピス病棟に入院をご希望される患者さんを対象とした外来です。ホスピス医がご相談をお受けし、必要に応じてホスピス病棟の入院予約を行います。

診察ご希望の方はホスピス相談窓口へお電話下さい。

なお、混み合っている場合には外来診察日は2ヶ月以上先になることがあります。キャンセルが出た場合やご病状により日程を早めることもありますので、お申し出ください。



(ホスピス棟玄関)

ご相談専用 ☎042-388-2888
受付時間 月～金 9:00～12:00
14:00～17:00

産婦人科4D超音波外来のご案内

産婦人科部長代行 高江洲陽太郎

4D超音波とは通常行っている妊婦健診の超音波画像を立体的、さらに経時的に映像でお見せするものです。立体的に見えるため、赤ちゃんの表情や手足の状態をよく観察することができます。これから生まれくるお子さんの表情を写真におさめておくのはいかがでしょうか？今だけしか見ることができない赤ちゃんの写真をプレゼント致します。

現在4D外来は月曜日の午後3～4人予約制で行っております。おすすめは妊娠20週～26週頃です。胎児の姿勢や向き（うつぶせ状態など）によって表情をうまく観察できない場合もあります。ご家族と一緒にどうぞお気軽にご相談下さい。

ブライダルチェックのすすめ

産婦人科部長代行 高江洲陽太郎

結婚し子供を授かりたいと願うことは女性にとって自然なことです。

しかし、近年晩婚化がすすみ結婚後に挙児希望があってもなかなかスムーズに妊娠に至ることが難しくなってきました。それまでに、婦人科を受診する機会がなかったため、婦人科疾患を患っていても気づかず過ごしている方も少なくないためです。そのため、結婚後に受診した場合、不妊のために手術が必要な方や、妊娠中に手術を行う方もいます。もちろん、妊娠中の手術は母体・胎児にもリスクを伴います。

今後、ご結婚の予定のある方、また自分の状態を調べてみたい方、今一度、ご自身の身体だけではなく、大切なパートナーや生まれてくる赤ちゃんのために検査を受けてみてはいかがでしょうか？ブライダルチェックはそんな女性を支えるための検査です。

基本的な血液検査、子宮頸がん検診、感染症検査（肝炎、HIV、梅毒、クラミジア検査、風疹抗体など）、超音波検査（子宮筋腫、卵巣嚢腫など）を行っています。どうぞお気軽にご相談下さい。

さくらまち保育所

さくらまち保育所は、4月から新築された聖ヨハネ会本館1階で保育を行っています。定員は19名、病院職員のお子さんが少ない時には聖ヨハネ会の他施設のお子さんもお預かりしています。

子供達は新しく広い保育所での生活にも慣れ、のびのびと楽しい時間を過ごしています（写真）。



保育所の運営は大変ですが、桜町病院に勤務する職員の仕事と育児の両立支援のために、院内保育所の運営の継続に努めています。

患者さんの権利と責務

患者さんの権利

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利があります。
2. どなたでも、どのような病気でも平等かつ公平な医療を受ける権利があります。
3. 病状と経過、検査や治療の内容について、分かりやすい言葉で説明を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報に基づき、自らの意思で医療内容を選ぶ権利があります。
5. セカンド・オピニオンを希望される場合は、当院は快く診療情報を提供します。

患者さんの責務

1. 病状などに関する情報提供に努める責務
ご自分の症状や健康に関する詳細で正確な情報を医師や看護師等へ提供することにご協力ください。
2. 適切な医療行為が提供できるように努める責務
病院内では、他の患者様等に迷惑にならないように静粛を保つとともに、当院職員が適切な医療を行えるようにご協力ください。
3. 病院秩序を守る責務
病院内の秩序を守るために、当院の諸規則に従ってください。
4. 診療費支払いの責務
病院は診療報酬によって運営されています。医療費の支払い請求を受けた時は速やかなお支払いにご協力ください。

編集後記

今年も猛烈に暑い夏となりました。7月初めに東京では観測史上初めての連続真夏日を記録しましたし、東日本から西日本に掛けてこれまでの記録を更新する記録的な暑さが続いています。また、全国各地で過去に経験したことのない豪雨に見舞われ、大きな災害に見舞われています。異常気象で、未だまだ厳しい暑さが続きますが、体調管理をしっかりして、さわやかな秋を迎えましょう！

(周)